

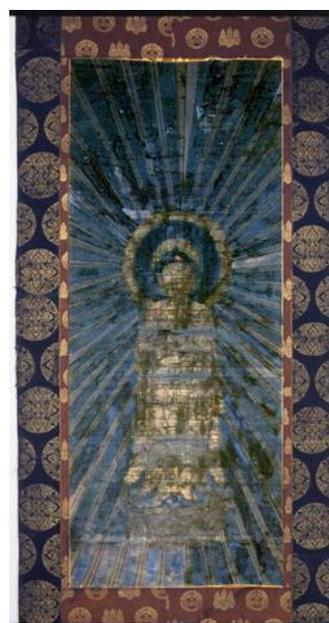
きゅうしんぼむらくぼけどうじょうしりょう
旧新保村久保家道場資料

種 別	小松市指定文化財 歴史資料
指定年月日	平成17年11月3日
所在地	上小松町（個人蔵）

白山麓の西谷、山内新保において真宗道場であった久保家に安置されていた絵像一幅と名号三幅の一括資料。

方便法身尊像（真宗の本尊としての阿弥陀如来の絵像）には実如直筆の裏書があり、明応5年（1496）に山内新保村の「正乗」という人に下付されたことが分かる。蓮如が9歳のときに記した九字名号や、同じく蓮如による草書と楷書という字体の違う六字名号とともに、約500年にわたり、新保の地で信仰の対象として受け継がれてきたものである。

寺院ではなく、真宗伝播初期に内道場となった居宅で安置・保管され続けた一括資料として、白山麓における真宗道場を語る上で重要な歴史資料である。



絹本着色方便法身尊像



紙本墨書六字名号（楷書）
「南无阿弥陀仏」



紙本墨書六字名号（草書）
「南无阿弥陀仏」



紙本墨書九字名号（行書）
「南无不可思議光如来」